

教科	科目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭基礎	1年 普通科 1年 国際科	2単位	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	資料集 最新生活ハンドブック資料&成分表(第一学習社)

到達目標	生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを旨とする。
------	---

評価の観点	A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な知識と、それらに係る技能を身に付けている。	家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を身に付けている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を身に付けている。

学習の評価	知識・技術 ・定期考査 および 実習 思考・判断・表現 ・定期考査 および ワークシート、話し合い等での考察力、問題解決能力 主体的に学習に取り組む態度 ・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物と、その内容は充実度。 ・授業態度、実験・実習等に主体的・積極的に参加しているか。 ・ホームプロジェクトにおける達成度。	以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。
-------	---	-------------------------

単元	学習内容	到達目標
家族・社会との共生 1章 生涯を見通す	1.人生を展望する 2.目標を持って生きる	<ul style="list-style-type: none"> 家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。 家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働 などについて理解する。
2章 人生をつくる	1.人生をつくる 2.家族・家庭を見つめる 3.これからの家庭生活と社会	
3章 子どもと共に育つ	1.命を育む 2.子どもの育つ力を知る 3.子どもと関わる 4.子どもとの触れ合いから学ぶ(保育実習) 4.これからの保育環境	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 赤ちゃんふれあい体験、保育見学を通して、乳幼児への理解を深める。 少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。
4章 超高齢社会を生きる	1.超高齢大衆長寿社会 2.高齢者の心身の特徴 3.これからの高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> 高齢期の心身の変化や特徴について知り、高齢社会の現状と課題を理解する。 高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題について考える。 ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかかわっていけばよいか考える。
5章 共に生き、共に支える	1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる	
生活の自立 6章 食生活をつくる	1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食生活の選択と安全 4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 調理実習 6.これからの食生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 栄養素の種類と働き、その食品との関連を理解する。食の安全について理解する。 班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。 家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的かつ合理的に営み、その充実に向上を図る能力を伸長する。
7章 衣生活をつくる	1.被服の役割を考える 2.被服と表示、材料、性能 3.被服を管理する 被服製作 4.これからの衣生活 5.布を用いた生活の知恵	<ul style="list-style-type: none"> 衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。 家庭経営の立場から家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実に向上を図る能力を伸長する。
8章 住生活をつくる	1.住生活について考える 2.住生活の計画と選択 3.これからの住生活	<ul style="list-style-type: none"> 自分の日常生活を振り返り、生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解し、自分や家族のライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。
9章 経済生活を営む	1.職業生活を設計する 2.国民経済・国際経済と家庭の経済生活 3.現代の消費社会、契約トラブル 4.これからの消費生活と環境	<ul style="list-style-type: none"> 契約や消費者信用、多重債務問題、消費者基本法などの消費者保護の仕組みについて理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。 多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
10章 持続可能な生活を営む		

<p>生活の創造 11章 生活を創造する</p> <p>ホームプロジェクトの実践 学校家庭クラブについて</p>	<p>1.生活をデザインする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ライフプランガイドを活用して自分の生活を見直し、生活設計ができる。 ・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について、日ごろの学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。
--	--------------------	--